

【ファシリテーターの活動状況】

第4回 地域包括ケア専門職“絆”研修 ② 生活支援「在宅療養」

- 日時 令和元年9月29日（日） 9：15～12：15
- 場所 東部医師会館3階研修室
- ◎ 研修参加者 46名(内多職種研修WG関係者2名)：8グループ

今回は8名のファシリテーターが、2日間の事前準備を行い、研修日に向かいました。自身のファオローアップと支援を兼ねて、打合せのみには山本康臣委員と隅友裕委員の参加がありました。

研修当日は開始前に最終確認を行い研修にのぞみ、研修会終了後にも集合し、振り返りを行い、意見交換を行いました。





中瀬 香里	MSW	ウェルフェア北園渡辺病院	1 グループ
三橋由希子	介護福祉士	ガーデンハウスはまむら	2 グループ
間庭 弘美	看護師	鳥取市立病院	3 グループ
池本 圭子	主任介護支援専門員	鳥取中央包括支援センター	4 グループ
山本 陽子	MSW	鳥取赤十字病院	5 グループ
藪内きみの	看護師	鳥取市立病院	6 グループ
平井 慎哉	主任介護支援専門員	河原あすなろ居宅支援事業所	7 グループ
村上 志奈	看護師	訪問看護ステーションおざき	8 グループ



ファシリテーターは振り返り（自己評価）用紙を記入、提出して終了します。

◆グループワークファシリテーターの自己評価（一部抜粋）

1. ファシリとして良くできたと思うこと、このままやっていたいこうと思うこと

- アイズブレイクやグループワークの際、皆さんの表情を確認しながら困っている方がおられないか配慮すること。
- 見守る姿勢、話の流れが、どういう方向に行くか待つことができた
- タイムキーパーの役割。

2. ファシリとして今後努力を要すること、やり方を変えてみようと思うこと

- せっかく出た貴重な意見がまとめる段階、発表の段階で埋もれている状況。具体的には…まとめとして出た意見に、他にもこんな意見も出ましたね…貴重な意見ですよなどと追加事項を示してみるか…
- 介入のタイミングや頻度が難しい。時間管理。
- グループワークの意見交換をもっと深められるよう促しや介入方法等の努力が必要と感じた。
- 司会担当の研修生が役割を果たせるように援助すること

3. 研修参加者にとって何が・どんなことが一番よかったか

- 自分とは違う職種の方との話し合いがもたれ、意見交換された事。認識の違い、価値観の違い、患者データに対する捉え方の違いを把握することが出来たのではないかと。グループメンバーが笑顔で、活発な話し合いが出来た事。
- 施設を超えて情報共有ができていたこと、病院にいと地域を知らない。ケアマネジャーは看取りや、緩和治療が分からないなど、新たな課題を見つけられたこと
- 病棟の看護師さんにも在宅での支援には多職種が関わることが大事ということを改めて理解していただけた。

4. 研修参加者にとって何が・どんなことが良くなかったか

- 職種が少なかったこと、多職種のワーキングが実践したいなあと考えます。多職種の研修参加を促す方策は…
- 在宅系のケアマネやサービス事業所の参加がすくなかったこと。
- ワーク1が時間もたりず中途半端になってしまい十分に深まらなかったです。

5. 研修までの準備に関しての感想

- ファシリテーターの中での共通理解をしてから、研修に臨むことで、グループごとの特色は出たとしても、深めたい内容がずれないので、良いと思いました。
- 問題はなかったと思う。
- ワークの目的、研修の流れを細やかに確認していたので、安心してワークに臨めた。

6. その他(感想・意見)

- ファシリテーションを実施するたび、学びがあります。事前準備の重要性、ワークを進行するための戦略考案と実践…非常に難しい事と感じております。貴重な体験をする機会を頂き感謝いたします。
- ワークは司会の力量で内容が充実するかどうかがあるので司会決めは重要だと思いました。
- 毎回自分自身も学ぶことが多く、ありがたく思います。

◆準備日のみ参加のファシリテーターからの意見・感想(一部抜粋)

- 現在のファシリテーションワーキングの雰囲気や活動状況を知れたり感じたりするのにはありがたい機会でした。
- 研修参加へのブランクの穴埋めができる機会としては大変ありがたいと感じました。
- 絆研修のあり方、進め方、何よりファシリテーターの役割や立ち位置など、以前に参加していた頃とは変わっている点が多々あると思いました。(研修後に振り返りや反省等から次回の研修に活かし、研修が都度変化していていると感じました)。
- 研修会ごとの振り返りや反省点も教えてもらいつつ、現在のファシリテーターの状況(振り返りや反省からの役割)なども教えてもらえればありがたいです。